

イラストや図形などを使って親子の会話を 親子でコミュニケーションあそび

6月26日に総合交流センターで「親子で参加するにこにこコミュニケーションあそび」が開催され、7組24名の親子が参加しました。言葉だけでなく、絵や図形も使うことでお互い伝わりやすくなる親子の会話。小鷹将悠くんは「育てていたなすが、枯れた話をした。色んな話ができてうれしかった」と笑顔で答えました。



「子どもは大人と比べ話すことが苦手なので、イラストなどを使うことで会話しやすくなる」と話した講師の守随佑果さん。

遠隔操作で動く3cmほどの箱型ロボット「TIO」を2台使用してゲームを考案。プログラミングも児童が入力しました。



小型ロボットを使った新しい遊びを開発 遊びをつくる仕事を学んで体験

田代小学校で小型ロボットを使用して新しい遊びづくりを行う授業に6年生9名が参加しました。「ソニー・インタラクティブエンタテインメント」のキャリア教育の一環として5月から実施。だるまさんが転んだを基に遊びを考えた馬庭優陽くんは「班のみんなで考えて、最初より楽しい遊びになって良かった」と話しました。

動拠点の更生保護サポートセンターを田代支所2階に設置し会員14名で運営中。毎週月・水・金の9時～16時まで開設。



立ち直りを支える地域社会実現を目指し 大根占保護司会がメッセージ伝達

犯罪や非行のない社会を目指す「社会を明るくする運動」の内閣総理大臣メッセージを7月1日、大根占保護司会が町長に伝達しました。今年で72回目となる地域の支え合い運動。大根占保護司会の貫見広幸会長は「誰一人取り残さず、誰もが安心して生活を営むことができる社会を目指したい」と決意を述べました。

海の中に入り、7cmほどの稚魚を放流する子どもたち。県漁協大根占支所の菅蒲隆支所長は「たくさん魚を食べて、元気いっぱいの子どもになってほしい」と期待を込め話しました。



成長し戻ってきてと願いを込め ヒラメ稚魚の放流体験

6月1日、宿利原小学校の児童8名が大根占海岸でヒラメの稚魚3,000匹の放流体験を行いました。県漁協協同組合大根占支所や町の産業振興課などが栽培漁業や地元の海の魅力を知ってもらうために企画。6年生の柊晴空虎くんは「ヒラメの稚魚が小さくてかわいかった。大きく育てて戻ってきてほしい」と笑顔で話しました。

肝属地区体育大会の陸上競技に参加 代表として全力で挑んだ35名

6月19日、ジャパンアスリートトレーニングセンター大崎で肝属地区陸上大会が開催され、錦江町代表として小学生35名が出場。雨の影響で地面のコンディションが悪く、競技は行われました。6年生の走り幅跳びでは川畑志乃さんが3m48cmを跳び1位、森咲花さんは3m41cmを跳び2位と、好成績を収めました。



本番のために練習して頑張ってきた子どもたち。地面が濡れ、普段どおりに走れない中、持てる力の全てを出し切りました。

チームワークを武器にベスト4以上目標 春に続き2度目の全国大会へ出場

大根占ソフトボールスポーツ少年団が5月に霧島市で開催された鹿児島県大会を制し、春夏連続で全国への切符を手に入れました。大根占・池田小学校の2～6年生14名が所属し、投手力と堅い守りが持ち味のチーム。主将の小脇賢佑くんは「チームワークを武器にベスト4以上を目指します」と決意を述べました。



今年3月の全国大会で敗れた悔しさをバネにチーム全員で練習に励んでいます。全国大会は7月30日～8月2日に岡山県で開催。

若年性認知症である丹野智文さん本人の動画視聴も行われ、児童たちは真剣な眼差しで丹野さんの話に聞き入っていました。



認知症にやさしい地域づくりを目指して 絵本の読み聞かせで認知症を学ぶ

5月23日に大根占小学校でオンラインを使用して認知症フレンドリーパートナー養成講座が行われ4年生29名が参加。オレンジプロジェクトメンバーの大学生が手作りした絵本の読み聞かせを行い認知症について学習。水流舜太くんは「認知症がどういうものかわかった。困っていたら声を掛けて助けたい」と話しました。